



SCB

ニュース&トピックス

No.2025-28

(2025. 6. 6)

信金中央金庫 地域・中小企業研究所

研究員 森川 友理

03-5202-7671

s1000790@facetoface.ne.jp

しずおか焼津信用金庫の未来へつなぐ地場産業活性化策

ポイント

- しずおか焼津信用金庫は、地域の地場産業を活性化し、次世代に伝えることを目的とした「地域循環型もの、人、夢づくり活動」に取り組んでいる。
- 同活動は、主に①『しずおか特産品解体新書』の配付、②「しずおか夢デザインコンテスト」の実施という二本柱で展開しており、市内小学生を対象としている。
- 同活動の社会的評価は高く、企業・団体による優れた芸術文化支援活動を顕彰する「メセナアワード2015」にて優秀賞を獲得したほか、信用金庫PRコンクール「最優秀賞」、経済産業省ものづくり日本大賞「優秀賞」など数々の賞を受賞している。
- 2025年度からは対象を中学生に広げる新たな企画を検討しており、地域の地場産業をさらに深く理解する機会を提供する予定である。

1. はじめに

2025年1月30日、公益社団法人企業メセナ協議会によるメセナセミナーに、しずおか焼津信用金庫お客様サポート部の佐藤係長が登壇した。特徴的な取り組みとして紹介された同金庫の「地域循環型もの、人、夢づくり活動」は、「メセナアワード2015」にて優秀賞を獲得している。

メセナは、単に企業による文化・芸術支援ではなく、人々の交流の創出や地域活性化などに資する投資活動ともいえる側面があり、地域とともに生きる信用金庫と非常に親和性が高い。先進的事例である同金庫の取り組みを追った。

2. 概要

静岡県静岡市は、徳川家康が拠点とした駿府城の城下町として栄えた歴史を持ち、職人文化が根付いた地域である。この地域には、伝統工芸や地場産業が数多く存在し、静岡市の文化的・経済的な基盤を支えてきた。しかし、近年では職人の高齢化や後継者不足が深刻化しており、一部の地場産業は存続の危機に瀕している。

このような背景から、静岡市に本店を置くしずおか焼津信用金庫（図表1）は、地域の地場産業を活性化し、地場産業の価値を次世代に伝えることを目的とした「地域循環型もの、人、夢づくり活動」に取り組んでいる。同活動は、主に①『しずおか特産品解体新書』の配付、②「しずおか夢デザインコンテスト」の実施という二本柱で展開している。

（図表1）しずおか焼津信用金庫の概要（23年度末）

本店所在地	静岡県静岡市
預金残高	1兆8,305億円
貸出金残高	9,127億円
店舗数	62店舗
役職員数	902人（嘱託職員を含む）

（備考）信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

3. しずおか特産品解体新書®

『しずおか特産品解体新書』（図表2）は、静岡市の地場産業の歴史や職人の現状、22の地場産品の製造工程や価値を子どもたちに伝えるために編纂された資料である。2000年に初版を発売し、以降毎年7,000冊を静岡市内の小学校に配付している。

編纂にあたっては、地場産業の職人や企業への取材を行い、作業工程を写真で記録し、複雑な工程を簡易に表現する工夫を施した（図表3）。これまでに累計20万冊以上が配付されており、地域唯一の産業学習教材として、静岡市内小学校の授業等で活用されている。

この資料は、地場産業の歴史を記録する上での資料価値も高く、国立国会図書館や市内の図書館にも寄贈されているほか、同金庫の公式ウェブサイトでデータ閲覧が可能である。

（図表2）

『しずおか特産品解体新書』



（図表3）写真で作業工程が分かる構成

駿河雑具

するがひなで

おもな製品

三方、茶せん、蓋盆、高杯、たんす、年輪、おかこ、ばんぱり、びょうぶ、ひな籠、入形ケースなど。

製造の得意

細かな加工をした製品が多いこと、塗り上げが美しいことや、蒔絵の装飾が華やかなこと。

つくりかた

それぞれ専門の職人が細かな作業をしています。

①木地作り ④金具作り ⑦完成
②塗 ③蒔絵 ⑤仕立 ⑥仕上げ

おもな材料

ほう、ひのき、アガチスなどの木料と、黄銅、う、アルミニウム、鉄、銅などの金属や、漆やカシュー漆などの塗料。

おもに使われる道具

のこぎり、かん、ろくろ、紙やすり、へら、はけ、ふで、鑿、たがね、木づちなど。

おもな工程

品質の良い材料をえらぶこと、漆をいねに塗ることや、蒔絵をきれいにすること。

静岡でできるわけ

昔から静岡には、「ひな籠」作りにすぐれた技術を持った職人が大勢いたからです。では、静岡市の「ひな籠」の生産量は全国一（東京調べ）で、「駿河雑具」は伝統的工芸品として国で認められています。

ことば（業界の専門用語）

「蒔絵」……蒔絵（蒔絵をした3〜5層のお膳）を三つに蒔絵の器のことです。
「三つ」……三つの蒔絵にくりぬいた民がある、食べ物を置くお膳のことです。
「蒔絵」……お膳に蒔絵の足ついた食べ物を置く器のことです。

県内事業所数	29所（令和3年）
県内年間生産額	2,674百万円（令和3年）

資料：静岡市「データでみる静岡市の地場産業」（職員・職人・製造企業）

組合 静岡雑具人形蒔絵組合
静岡市駿河区中野新田723 高屋月見屋店内 電話(054)281-8432

ひな籠には「平蒔」（二層）、「三層蒔」（三層蒔）、「五層蒔」（五層蒔）、「七層蒔」（七層蒔）などがあります。

⑥仕立（出来あがった製品をまとめた、何をつくるかを決めたりします）「仕立師」

①木地作り（板を切ったり、削ったりして、麗しい木地をつくり出す）「木地師」

①木地作り（「ろくろ」を使って丸型の木地をつくり出す）「挽物師」

③蒔絵（漆で下地を塗った上に金粉や銀粉などを蒔いて絵をつくり出す）「蒔絵師」

③蒔絵（下塗り、中塗り、上塗り、漆やカシュー漆などの塗料を何回も塗り重ねる）「塗師」

④金具作り（「たがね」を使い、蒔絵の金具をつくり出す）「金具師」

④蒔絵（蒔絵の器をつくり出す。蒔絵の仕上げにはたたく人の機軸があります）「蒔師」

⑦完成（美しい蒔絵のついた、ひな籠）

⑥仕上げ（伝統的な技術を生かして、製品を組み立てます）「仕上げ師」

2000年5月発行

（出所）図表2・3ともにしずおか焼津信用金庫 提供

4. しずおか夢デザインコンテスト

（1）取組内容

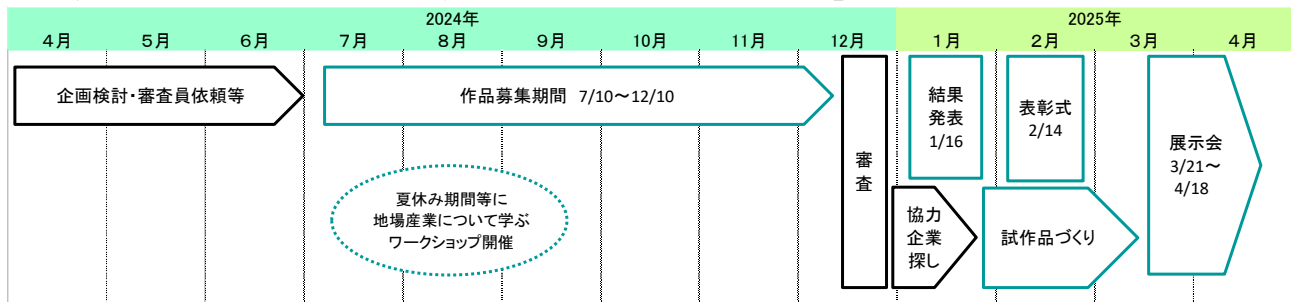
同金庫は、静岡市内の小学3年生から6年生を対象に「あったらいいな！こんな地場産品」をテーマとした「しずおか夢デザインコンテスト」を実施している。子どもたちが地場産業に親しみ、地域への関心を高めることを目的として、2003年に開始した。

対象児童は、『しずおか特産品解体新書』をテキストに、自身のアイデアをデザイン画におこして応募する。審査は外部の有識者によって行われ、絵の巧拙ではなく「夢」のある作品が評価される。入賞 60 作品のうち特別賞に選ばれた 10 作品は、地元企業や職人の協力を得て現実のものとなる。試作品の製作にあたっては、受賞した児童とその家族が工場や工房を訪れ、職人と打ち合わせを行い、可能な工程に参加することで、ものづくりの楽しさや大切さを学ぶ機会を提供している。作品は 2 点作成し、1 つはデザインを考えた児童にプレゼントする。

(2) 年間スケジュール

「第 23 回しずおか夢デザインコンテスト 2025」の年間スケジュールは図表 4 のとおり。作品募集期間に夏休み期間を含んだり、小学 6 年生が中学生になる前に表彰式などのイベントを行ったりするなど、小学生が参加しやすいよう配慮したスケジュールとしている。

(図表 4) 「第 23 回しずおか夢デザインコンテスト 2025」年間スケジュール



(備考) 同コンテスト公式 HP より信金中央金庫 地域・中小企業研究所作成

(3) 実績

同コンテストの応募作品は年間約 4,000～6,000 点にのぼる。これは対象児童の 2 割ほどにあたる数であり、地域に根付いた取組みとなっている。これまでの 23 年間で約 97,000 点の作品が寄せられ、そのうち 220 点の作品が地元企業・職人の協力のもと実現された(図表 5)。

さらに、子どもたちのアイデアを実現するだけには留まらず、商品化された作品も 5 点あった。なかには、静岡市のふるさと納税品に採用されている作品もある。子どもたちの新奇的なアイデアと職人の試行錯誤が世界で唯一の地場産品を生み出し、伝統的な地場産業界に新たな息吹をもたらしている。

(4) 取組時のポイント

①参加率向上に向けた工夫

信用金庫単独ではなく、地元の産業振興協会・特産工業協会と協力して実行委員会を組成することで、学校から児童に案内してもらいやすくしている。また、参加児童全員に参加賞を配ることで、他のコンクールやコンテストと差別化を図っている(図表 6)。

②有識者の知見活用

審査員として、大学教授やデザイナー、伝統工芸職人など、外部有識者へ協力を仰いでいる。地場産業について学ぶワークショップの講師や、特別賞受賞作品を実現してくれる協力企業探しなど、さまざまな場面で有識者の知見を活用している。

③入賞作品展示会の開催

同金庫本店1階にある「ギャラリーゆめ空間」にて、入賞作品展示会を開催している。会場には、入賞60作品の原画と特別賞10作品の試作品を展示する。毎年、入賞児童とその親族で大変にぎわっており、来店促進に寄与している。

(図表5) 特別賞受賞作品(実現した夢)



(図表6) 参加賞のハットくんグッズ



(備考) 図表5・6ともに信金中央金庫 地域・中小企業研究所 撮影

5. 評価・今後の計画

(1) 評価

同活動は、今年度で26年目を迎える。20年以上継続して取り組むことで、地場産業に関心を持った子どもが親になり、また自分の子に「しずおか夢デザインコンテスト」への出品を勧める、という好循環が生まれている。

社会的評価も高く、企業・団体による優れた芸術文化支援活動を顕彰する「メセナアワード2015」にて優秀賞を獲得したほか、信用金庫PRコンクール「最優秀賞」、経済産業省ものづくり日本大賞「優秀賞」など数々の賞を受賞している。

(2) 今後の計画

今後の展望としては、地場産業の存続に向けた後継者育成や職人の支援が重要な課題となる。同金庫は、地域企業や行政と連携しながら、地場産業の未来を支える活動を継続していく考えである。また、2025年度からは対象を中学生に広げる新たな企画を検討しており、地域の地場産業をさらに深く理解する機会を提供する予定である。

本レポートは発表時点における情報提供を目的としており、文章中の意見に関する部分は執筆者個人の見解となります。したがって、投資・施策実施等についてはご自身の判断をお願いします。また、レポート掲載資料は信頼できると考える各種データに基づき作成していますが、当研究所が正確性および完全性を保証するものではありません。なお、記述されている予測または執筆者の見解は予告なしに変更することがありますのでご注意ください。

関連レポートのご案内

金庫事例

このほかにも、
信用金庫経営に関する様々な情報を発信していますので、
当金庫 HP からご覧ください！

当研究所 HP トップ : <https://www.scbri.jp/>

関連レポートは
こちら



No.	発行日	タイトル
2024-92	2024/11/6	飯田信用金庫の伴走型事業承継支援についてー「事業承継・引継ぎ補助金 経営革新型」採択実績トップ信用金庫の取組みー
2024-148	2025/2/21	しずおか焼津信用金庫の「DX トライアル制度」について
2024-168	2025/3/11	甲府信用金庫の「キッズフリマ」を通じた金融教育の実施
2024-180	2025/3/25	島田掛川信用金庫の高校生参加型アントレプレナーシップ研修
2025-22	2025/5/7	たちばな信用金庫のコラボン連携による取引先支援
2025-23	2025/5/7	たちばな信用金庫の諫早商業高等学校との連携策